

# 第15回全国草地畜産コンクール

(社) 日本草地畜産種子協会会長賞受賞 津山市西中 神田 運盈さん

社団法人岡山県畜産協会 経営指導部

平成23年7月8日、東京都千代田区神田(社)日本草地畜産種子協会会議室において「第15回全国草地畜産コンクール賞状授与式」が開催され、津山市西中の神田運盈氏が(社)日本草地畜産種子協会会長賞を受賞されました。



神田氏は高齢化等により地域の不耕作地が次第に増加していく中、地域の状況を改善するには飼料作物への作付けが一番であり、畜産経営に頼らざるを得ないとして、農協を早期退職して、自らの肉用牛経営規模の拡大を図ってきました。

現在では、繁殖成雌牛13頭規模に拡大し、飼料基盤として地域内の不耕作水田290a、畑270aを借り受け、自給飼料の確保による高い飼料自給率を維持するとともに、地域内の不耕作地解消に努めています。

## 【経営形態】

肉用牛繁殖経営

## 【経営規模】

成牛	育成牛	子牛	合計	
13頭	3頭	8頭	24頭	
区分	面積	内借地	作付面積	備考
水田	390a	290a	445a	飼料作
雑草地	270a	270a	270a	放牧
計	660a	560a	715a	

## 【自給飼料生産利用】

イタリアライグラス 210a ロールサイレージ・一部放牧  
ライ麦 35a ロールサイレージ  
青刈りイネ 30a 乾草・再生草放牧

飼料稲 20a 立毛放牧  
イネWCS 150a ロールサイレージ  
野草 270a 放牧

## 【生産技術】 (H21年次)

生産技術	
平均分娩間隔	12.8ヵ月
平均子牛出荷月例	8.8ヵ月
子牛1日当たり増体量	1.01kg
飼料自給率(TDN換算)	86.7%
粗飼料自給率(TDN換算)	100%

## 【経営・技術等の概要】

- ① 不耕作地の利用と荒廃防止  
自らが借地利用を推進して農地の荒廃化を未然に防いでいる。
- ② 省力管理  
労働力が一人でも出来る経営規模、自給飼料生産、牛舎構造を考えている。
- ③ 飼料自給率の向上  
借地利用による飼料作物の作付け拡大と、2毛作の実施により粗飼料自給率100%を確保している。
- ④ 放牧利用  
雑草地250aでは、4から10月にかけて昼夜放牧を行っている。  
平成21年度から飼料用稲の立毛放牧を行っている。  
イタリアライグラスと青刈り稲の収穫跡地では再生草を利用した放牧を行っている。
- ⑦ コントラクター利用  
ロールベール体系を取り入れるとともに収穫にはコントラクターを利用し、収穫作業の省力化と適期刈り取りによる良質サイレージの確保を図った。

## 【今後の経営目標】

育種価の高い牛の後継牛を中心に基礎雌牛群の整備を図るとともに、周年放牧に取り組み、成雌牛20頭規模による経営の安定と充実を図る。